

# 令和7年度 北九州市立木屋瀬小学校経営方針 創立152年の歴史と令和の新しい学校

**文部科学省 生きる力 ～学びのその先へ～**

- 何ができるようになるのか（社会に出てからも生かせる力）  
「学びに向かう力、人間性」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」
- どのように学ぶのか  
「主体的、対話的で、深い学び」「個別最適な学びと協働的な学び」
- 重視すること  
プログラミング教育、外国語教育、道徳教育、言語能力の育成、理数教育、伝統や文化に関する教育、主権者教育、消費者教育、特別支援教育

**北九州市こどもまんなか教育プラン 5つのミッション**  
～「こどもまんなか」で、質の高い教育環境の充実を～

- 全てのこどもにとって「居心地の良い学校」をつくる
- 失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくる
- 誰一人取り残さない学びと、先端的な学びを進める
- 学校の自律性と教職員のウェルビーイングを高める
- 地域とのつながりの中で、こどもを見守り、支え育てる

令和7年度 木屋瀬小学校ビジョン（ミッションに基づいた本年度の学校目標）

**困難に立ち向かい、自らの考えを伝え合って  
進んで協働できる子どもの育成**

令和7年度 木屋瀬小学校テーマとスローガン（児童と共有するもの）

**～考え、伝え合う、行動する、そして広げる木屋瀬小学校～**

**チャレンジ！「わくわく」をみんなで作ろう！**

チャレンジ！・・・困難なことにも挑戦！  
「わくわく」を・・・やってみたい！楽しそう！なことに、心を躍らせて！  
みんなで作ろう・・・みんなの知恵と力を合わせてつくろう！

木屋瀬小学校 ミッション(変わらない本校の使命)

**自ら考え 心豊かで たくまい子どもの育成**

**校区の特性**

- 古くより長崎街道の追分宿場町として栄えた文化がある。
- 住宅地が更に増えているが、豊かな自然に囲まれている。そばに遠賀川、笹尾川、黒川が流れ、校内に昆虫や野鳥が姿を見せる。
- 熱意をもって指導すれば気持ち伝わる、温かく見守る地域。

**子ども・保護者・地域・教師の願い**  
～心身ともに健康で、自主し、自己実現ができる子ども～

(子) 分かってほしい、できるようになりたい、ほめられたい、認められたい。  
(親) 友達と仲良く、元気で明るい学校生活を過ごしてほしい。  
(地) 挨拶ができ、地域を大切に育てる子どもに育ってほしい。  
(教) 自分の良さを生かし、他者と協働で未来拓ける力をつけてほしい。

## 木屋瀬小学校のビジョンに迫る柱となる手立て

### つくりだすプラン＋主題研究(生活科・理科を軸とした授業の転換)

親、地域、教師の願い「心身ともに健康で、自主し、自己実現ができる子ども」

学校目標「困難に立ち向かい、自らの考えを伝え合って進んで協働できる子どもの育成」

子どもを支え、学び続ける教師集団

① **豊かな心**

- **見えない学力を育てる**  
・ 「人を大切にする力」「自分の考えをもつ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」を「見える学力」と同様に育成。
- **立ち止まって、笑顔のあいさつ**  
・ 「メタセコイヤ」のあいさつ。(目を見て、立ち止まり、背筋を伸ばして、声を出して、いい笑顔で、やさしい木屋瀬をつくろう)  
・ 教師も率先してよい挨拶を。(送るときは玄関で)
- **そうじ→感謝で指導する**  
・ そうじの意味から伝え、方法を教える。(掃き方・拭き方・順序・割当て方)  
・ 奉仕に対して、認められる場、感謝される場づくり。
- **特別な教科道徳の授業**  
・ 道徳教育の要として「考え議論する道徳」の授業の充実。
- **自然と関わる**  
・ 動植物との触れ合いの中で命を実感する体験。
- **「よさ」の発見→すぐにフィードバック**  
・ 「あなたのこんな姿がすばらしい」とすぐにフィードバックし周囲にも伝播。

⑤ **全ての子どもにとって「居心地の良い学校」に**

- **一人一人のニーズに応える特別支援教育**  
・ 教育的ニーズに応じた指導、交流及び共同学習の充実。  
・ 全ての子どもが安心して過ごせる学校づくり。
- **特別支援教育コーディネーターを中心とした校内相談体制**  
・ ケース会議、保護者面談。個別の教育支援計画・指導計画の作成。
- **児童支援加配教諭を中心とした寄り添う支援**  
・ 担任教諭と児童支援加配教諭が連携した不登校対応や個別の学習支援。
- **特別支援教室の活用**  
・ チャレンジルーム、ステップアップルームの活用。
- **自己肯定感を高める**  
・ 自分の価値を感じる時間の創造。⇒ 伝え合うことから、認め合うことへ。
- **全ての子どもが「わかる授業」づくり**  
・ UDL(授業のユニバーサルデザイン)をベースとしたわかる授業。  
・ 自己有用感を感じる授業への参加。
- **居心地の良い仲間づくり**  
・ 共感し認め合い、高め合うことができる仲間づくり
- **子どもと目を合わせる教師の存在**  
・ 子どもを一人の人格者だと認めて接する教師。  
・ しっかりと話を聞き、子どもの行為の背景を理解する教師。

⑧ **教師の指導力の向上**

- **授業の「転換」に挑戦する教師**  
・ 「主体的、対話的で深い学び」「個別最適化の学びと共同的な学び」「ICTの活用」など、今、求められている授業への転換に挑戦する教師。  
・ 社会の動きと子どもの実態の両面から、子どもに必要な力をつけるために学び続ける教師。(校内研究、校外研修、こやのセカフェ、サークル、など)
- **授業で力をつける(不易と流行の融合)**  
・ 「わかる授業づくり」5つのポイント
- **「考える授業」「分かる授業」を提供するファシリテーターになる**  
・ 「考え」をもつ前提の確認。指名をさせない考える時間を大切にする「待つ」姿勢。  
・ 学習規律の確立と専科指導。持ち合い授業の充実。
- **課題克服に対する工夫**  
・ 「読書時間」「自宅学習時間」「体力」「自己肯定感」向上への工夫。  
・ コグトレ、学力分析プロジェクトの継続。

② **確かな人権感覚**

- **いじめを生まない好ましい人間関係づくり・学級づくり**  
・ 子どもつながりプログラム(対人スキルアッププログラム)をベースに。  
・ SNS、ソーシャルネットの危険性、事案への早期対応。
- **人権教育の推進**  
・ 学校が行う全ての教育活動の基盤として推進。  
・ 地域、家庭、学校が連携した人権教育の推進。
- **近隣の保、幼、小、中との連携**  
・ 教師自ら研修に努め、人権感覚を磨く。  
・ 南同連で一体となった取組の推進。

⑥ **主体的に考え、協働する子ども**

- **本気の学級目標**  
・ 授業や行事の中で、学級目標をどう具現化していくのか、小さな目標を立て、それに向かう姿を価値付ける。
- **子どもが主役となる場づくり**  
・ 日頃から、子どもが生活の場を自ら創り出せる場づくり。  
・ つくりだすプランを手立てとし、主体的に活動し、協働する喜びを感じる場づくり。  
・ 学校生活の中で最も長い時間「授業」の中で、子どもが主役となる場づくり。(主題研究を通じて授業づくりを追究する)

⑨ **安心安全な学校づくり (危機管理)**

- **子どもの健康・安全のために共通理解と各所とのつながり**
- ① **管理職、教職員とつながる**  
・ 報告、連絡、相談の徹底(知らないことは対応できない)、時系列での記録の作成、児童情報の共有、学校適応部会の活用。  
・ 網紀肅正；交通事故、飲酒運転、公金取扱、個人情報、セハラ・パワハラ、SNS。  
・ トラブル発生⇒正確な事実確認・チームで対応・一つ上の手厚い対応
- ② **保護者とつながる**  
・ 欠席1日目は電話連絡、2日目は家庭訪問で、状況確認。親の悩みに寄り添う。  
・ 初動をはやく。怪我、トラブル、持物紛失は当日の事実掌握・連絡を。(連絡帳は×)
- ③ **地域とつながる**  
・ ボランティア(パトロール隊)と子どもを感謝でつなぐ。  
・ ふるさととつながる⇒木屋瀬宿場町の歴史と伝統文化の継承。
- ④ **学校外とつながる**  
・ 電話、外来者対応⇒明るく元気に(電話対応17時30分まで)。  
・ 学校だけで解決できないことは、外部の施設、組織を活用し連携を図る。

③ **健康をキャッチ**

- **心と体の健康チェック**  
・ 毎朝「心」と「体」の健康観察。  
・ 「いじめアンケート」「こころのアンケート」で気持ちをキャッチ。  
・ 「気になる子」の情報は複数の教師で共有。

④ **健康を増進する**

- **健康な体づくり**  
・ フッ化物塗布推進による虫歯予防。  
・ 体を動かすきっかけづくり。
- **食育の推進**  
・ 「食べかたは生きかただ」(食育推進計画)  
・ 確実なアレルギーチェック。

⑦ **児童の実態に合った取組**

- **コグトレの実施・自学のすすめ**  
・ 中・長期的に認知機能の向上を目指す。(継続は力!)  
・ 自宅学習の定着。主体的に追究することのおもしろさを実感。続ける力。
- **防災・減災の取組**  
・ 学習参観を活用した水害防災学習や親子での取組。
- **故郷・木屋瀬を学習課題にした各教科・総合的な学習の時間**  
・ 木屋瀬街道、遠賀川の環境とゲストティーチャーの活用。

⑩ **時代の変化に応じた働き方(業務改善100点を目指さない仕事)**

- **共に成長できる明るい職場と教師の働き方改革**  
→ウェルビーイング(ポジティブ感情・没頭・他者との関係性・意味・意義・達成)
- ・ 持ち合い授業・学校行事のプロジェクト化で、見通し・準備の先取り。
- ・ 時間外月45時間・年360時間以内、年休12日以上、土・日出勤は報告。
- ・ 計画的な業務遂行。学校・学年定時退校日の設定。時間をかける教師≠良い教師。
- ・ 2学期制の導入を有効活用。